

水野谷

武志 ゼミⅠ・Ⅱ

MIZUNOYA Takeshi Seminar I・II



水野谷 武志
地域経済学科
准教授

リサイクル社会の 現状と課題

- 研修地
北見市留辺薬町
- 研修期間
2007年8月5日～8月8日
- 参加学生数
13名

今年度の研究課題は、日本で唯一の水銀リサイクル事業を手がける、野村興産株式会社の先進的な取り組みを学ぶことによって、リサイクル社会の現状と課題を具体的に考えることでした。研修先として野村興産の事業拠点であるイトムカ鋳業所(北見市留辺薬町)を訪れました。研修2日目に鋳業所を見学し、3日目には見学から生まれた自分たちの意見や質問を出し合い、最終日にもう一度鋳業所を訪れて担当者の方と意見交換し、さらに関連する資料やデータについては後日、郵送していただきました。これらの成果として、水野谷ゼミでは研究論文を作成し、大学のゼミナールが全国から集まって論文を発表する、第54回日本学生経済ゼミナール大会(新潟大学)に参加しました。

■ 報告資料:別冊資料編P28～P29に収録



工場見学にむかうゼミ生たち

学生報告



工場の大きさに圧倒!

経済学科2年
原田 大嗣(函館中部高校出身)

この地域研修に参加したくてこの日まで下準備を頑張ってきました。前期ゼミでは、吉田文和著『循環型社会』(2004年発行)をゼミ全員で読んで、リサイクルについて理解を深めていました。地域研修も近くなる頃には見学させて頂く、野村興産株式会社イトムカ鋳業所の関連資料に目を通すことによって、事前にある程度、把握する事が出来ました。

研修当日イトムカ鋳業所を見学し、職員の話も聞いてリサイクルのしくみや水銀について新しい知識も得ました。実際に鋳業所を見て回ると、一つ一つの設備の大きさに驚かされました。例えば、リサイクルの焙焼工程で通るロータリーキルンと呼ばれる設備は使用済み乾電池や蛍光管に含まれる水銀を気化させるために600度から800度で加熱しています。この設備内部はとても暑くて参ってしまうほどでした。加熱して気化された水銀を凝縮させるコンデンサータワーはとても高くて迫力がありました。使用済み乾電池の埋め立て処理により起こる水銀公害が1980年代に報道されたのをきっかけに、全国唯一の水銀処理施設であるイトムカ鋳業所は世間から脚光を浴びました。そして現在に至るまで、地道に蓄積された技術力に基づくリサイクル事業の様子を肌で感じる事ができ、この地域研修を通して良い経験をさせてもらいました。



地域研修を終えて

地域経済学科3年
小島 佑介(札幌篠路高校出身)

水野谷ゼミナールでは経済的な影響を強く与えるような社会問題の中から、自分たちが意欲的に調査・研究を行える社会問題や、関心・興味を持っている社会問題を1つテーマとして定め、関連する書籍や文献による学習と現地調査による学習を行い、ゼミとして合同論文を執筆します。論文は、テーマにした社会問題を細分化し、細分化された分野をゼミ生それぞれが担当して研究・調査を行うという方式で進められています。水野谷ゼミナールでは今年「リサイクル」について研究・調査を行いました。

私たちがリサイクルの実態を調査するために訪れたイトムカ鋳業所は主に、使用済みの乾電池や蛍光管のリサイクルを行っている数少ない所です。そこでリサイクルがどのように行われているかを見学し、講演・質疑応答等を行い、リサイクルに対する理解を深めました。

地域研修によって私が学べたことは、リサイクルの問題を解決するために経済的な視点から可能性を考える、という事でした。鋳業所の人達や、リサイクルに関する書籍・文献の著者の考え方や問題解決の方法は経済的な手法を用いたものであり、リサイクルをビジネスとして確立させ、高度な循環型社会を進めていくというものでした。つまり、社会貢献をすることにより、経済的に利益を得、社会貢献と経済を同時に考えていく、というものでした。このような考えを研究・調査によって学べたことは私にとって驚きであり、大きなプラスになりました。